

第16回電子貿易国際フォーラム 第4回韓国貿易国際会議(ICKT2017)・ 第11回国際三国シンポジウム(ITS2017)

調査研究部主任研究員

中島朋義

11月に韓国で開催された二つの国際学術会議に出席し報告を行った。

11月3、4の両日、ソウル市の中央大学校及びコンベンション施設 COEX を会場として、中央大学校韓国電子紡績研究院 (KETRI) の主催により、第16回電子貿易国際フォーラムが開催された。

今回は「東アジアの電子商取引におけるパラダイムシフト」というテーマのもとに、中国、日本、そしてホスト国韓国の専門家から、電子商取引、経済協力、交通インフラ整備、環境問題、一帯一路構想、アジアインフラ開発銀行 (AIIB) のインパクトなど、幅広い分野について報告が行われ、活発な議論がなされた。

興味深い報告としては中国の延辺大学の崔文氏から、北朝鮮の金融部門の近代化と電子商取引の発展について発表があった。国際的な経済制裁に晒される

状況においても、北朝鮮において徐々にではあるが金融機能の近代化が図られている実態が事例をもとに説明された。

続いて11月9～11日、韓国中部の大田広域市の忠南大学校及び大田コンベンションセンターを会場として、韓国貿易協会、大田世宗研究院、忠南大学校、慶熙大学校、経済人文社会科学国立研究協議会、韓国対外経済研究院 (KIEP) の主催により、第4回韓国貿易国際会議 (ICKT2017) 及び第11回国際三国シンポジウム (ITS2017) が開催された。

今回は「一つのアジアに向けた経済・経営の新たな課題: 新たな保護主義の台頭とアジア主要国の貿易政策」というテーマのもとに、中国、日本、台湾、ベトナムなど各国、そしてホスト国韓国の専門家から、貿易政策、経済統合、国際ヴァリューチェーン、経済協力、交通インフラ整備、

環境問題等、中国の一帯一路構想のインパクトなど、幅広い分野について報告が行われ、活発な議論がなされた。

興味深い報告としてはベトナムのツォンマイ大学の研究者から、ベトナム産水産物の日本市場への進出戦略について発表があった。日本市場における非関税障壁を乗り越えて、市場開拓を図るベトナム企業の手法について、具体的な事例をもとに報告がなされた。

両会議において、ERINA からは中島が報告者として参加し「北東アジアの経済的相互依存」をテーマに報告を行った。内容としては北東アジアの経済的結びつきを、人的移動、貿易及び直接投資、交通インフラの接続性、地域内 FTA の効果などの諸側面から明らかにし、必要とされる政策提言と今後の展望を示した。